

本庄っ子

2024.1.23 本庄水辺の学園 松江市立本庄小学校

校長室だより No9 発行者 福間敏之

謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます！ 1月9日三学期開始

令和6年の幕が開きましたが大変ショッキングでした。「大寒」は過ぎましたが、日本海側はこれからがいよいよ一番寒い時期です。北陸地方で苦しく辛い生活をしておられる方々に思いを寄せながら、できる支援を行ってまいりましょう。学校では義援金を今月いっぱいお願いしています。もしよろしければ学校へ直接お持ちください。松江市は能登半島の北端、珠洲市と姉妹都市提携をしていますので、松江市の義援金として寄託いたします。どうぞご協力ください。学校の方はスタートして2週間がたちますがとても落ち着いています。今年は甲辰(きのえたつ)、辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だそうです。たつ(竜、龍)は十二支の中で唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きく関わる年といわれています。子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様が、健康でご活躍なされることを心からお祈りいたします。



9日の始業式では第3学期を一年間の総仕上げと位置づけ、学年のまとめをしようと話しました。これまで学んで身につけたことをどんどん使って、もっと自信をつけて次の学年に向かおうと付け加えました。さらに、卒業する6年生との絆をより深め、たくさんの思い出をつくろうと呼びかけました。

東京の先生を招いて算数授業研修会を行いました 18日



松江市教研小学校算数部と松江算数研究会の二者共催で、筑波大学附属小学校の大野桂先生が、上記研修会で本校5年生相手に算数の授業をしてくださいました。テーマは「子どもが学び、学び合う算数授業とは」でした。本校教員はもちろんですが、市内外からも20名ほどの参加者があって、授業もさることながら研究協議も侃々諤々、大盛会でした。

どんな授業だったか、ごく大まかに言いますと、3本の筭があって、Aは20cmが一週間後に50cmに、Bは20cmが60cmに、Cは40cmが80cmにそれぞれ成長したことを、数値は出さずにイラスト動画で提示されました。そこで大野先生がこう問われました。「どの筭がよく育ったように見えましたか？」子どもたちはさかんに自分が感じたことを表明し合います。どんな比べ方があるか、それは本当に正しいといえるのか、それをうまく絡み合わせながら、みんなで見つけ合っていく、そのような授業でした。筑波大附属小の子どもたちに負けないくらい、一生懸命考えていた子どもたちに拍手を送りたいと思います。算数は正解が出てハイ終わり！ではちっとも面白くありません。どうやったら子どもたちの追究力が引き出せるか、私たちの地道な挑戦は今後もずっと続いていきます。

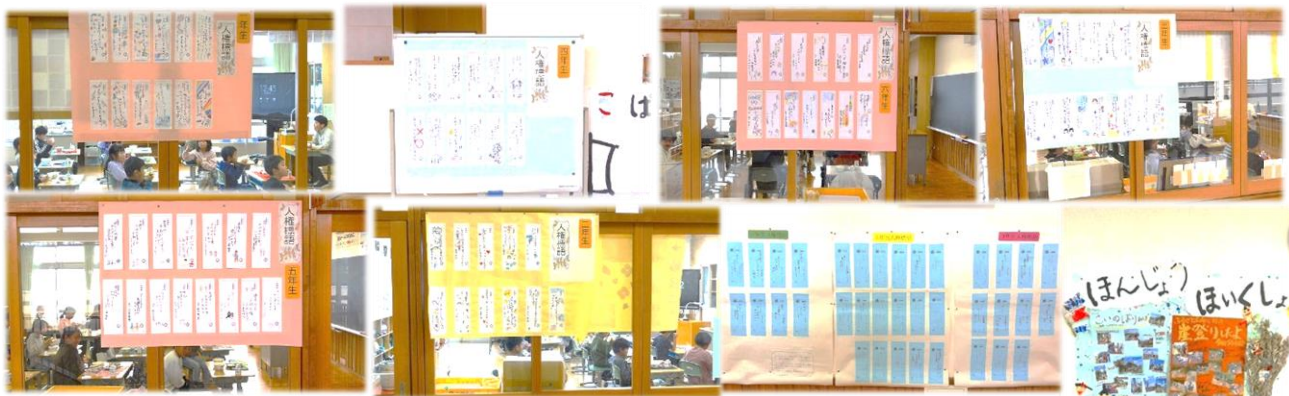


○今日、桂先生の授業を受けました。最初はCかなあとと思ってました。でもBでした。竜太郎さんの「÷」(の考え)がすごいと思います。私はそんなこと思わなかったです。

○今日算数の研究授業がありました。その時の先生が、ちよつと「ボケ」があって面白かったです。

人権標語掲示のお知らせ

昨年(2019年)の12月号で人権週間(12月18日～24日)にちなんだ活動を紹介し、その中で、人権標語づくりについて挙げていました。29日からは本庄公民館に掲示されます。子どもたちの思いのこもった作品をぜひご覧ください。



あの時を忘れない ～阪神淡路大震災から29年～

1995年1月17日5時46分、この山陰でもゆっさゆっさと揺れたあの大地震から29年たちました。30歳以下の方にはその記憶がありません。29年たった今、再び能登半島を中心とする北陸地方で多くの方が犠牲になり、被災されました。多くの家屋が倒壊し、輪島市では大火災も発生しました。海岸が4メートルも隆起していました。もう海には出られないと、漁業関係者の方が途方に暮れておられました。いったいどういことでしょうか。正月元旦を襲った激震はあまりにも無慈悲でした。

「災害は忘れたころにやってくる」といいますが、東日本大震災が2011年、熊本地震が2016年ですから、5～6年に一度、少なくとも10年に一度は、でっかい地震が来てもおかしくない、そんな風に考えた方がよいかもかもしれません。そういう点で、わが山陰地方は2000年に鳥取県西部地震を経験しています。あの時松江市が震度5弱でした。その後は鳥取県を震源とする地震がやや多めに発生していて、わが島根県を震源とする地震は、2018年の大田地震くらいでしょうか。空白地帯とまでは言えませんが、島根県東部では大きな地震が来ていないのは事実です。

そこでやはり重要になるのが「備え」です。「ここはそんな大きな地震が来るはずはない」そう思い込んでみると、「大丈夫、大丈夫」と安心してしまい、備えをするのが億劫になってしまいます。いわゆる「正常性バイアス」というのが働くためです。

具体的な備えとは？～1週間、電気・ガス・水道がストップを想定～

この想定から始めてみられてはいかがでしょうか。現在の各ご家庭の備蓄で、上記事象が発生したら、どれくらい生き延びられるかということです。災害が発生してすぐに救助隊が救助してくれることが理想ですが、今回の能登半島地震では、多くの地区で「孤立」が発生しました。助けが来るのを待つ間、自分たちだけで生き延びる「自助」、これが普段からの備えにつながると考えます。

何をどれだけ備蓄するかは、各ご家庭の家族構成によって異なります。「マイタイムライン」は主として「風水害」を想定して作られています。地震は待ったなしでやってきます。「普段から準備しておけば、いざという時に困らずに済んだのに…」という後悔をしないために、ゲームにでも参加するつもりで、軽い気持ちで始めてみてください。あれだけニュースで、「水道から水が出るのがこんなに嬉しいことだと今まで思わなかった」と言っておられるのを見るにつけ、「不自由してみても初めて知るモノのありがたさ」だなあとつくづく思います。

今月号は掲載する記事に乏しく、防災を中心とした内容でお送りしました。せっかくの機会ですので、各ご家庭で様々なチャレンジをしてみてください。ご報告いただければホームページでご紹介します。